

# オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会

## 速記録第二十一号

2015年8月28日

### 出席議員 十八名

委員長	高島なおき君	理事	吉田 信夫君	山崎 一輝君
副委員長	畔上三和子君		小林 健二君	鈴木 隆道君
副委員長	小磯 善彦君		石川 良一君	林田 武君
副委員長	吉原 修君		山内れい子君	川井しげお君
理事	橋 正剛君		小山くにひこ君	酒井 大史君
理事	秋田 一郎君		徳留 道信君	欠席委員 一名

### 出席説明員

オリンピック・パラリンピック準備局 局長	中嶋 正宏君	連絡調整担当部長準備会議担当部長兼務	浦崎 秀行君
次長理事兼務	岡崎 義隆君	運営担当部長	児玉英一郎君
技監	邊見 隆士君	競技担当部長	根本 浩志君
技監	西倉 鉄也君	パラリンピック担当部長	菅場 明子君
技監	石山 明久君	障害者スポーツ担当部長兼務	
理事	小山 哲司君	施設輸送担当部長	花井 徹夫君
総務部長	鈴木 勝君	施設調整担当部長	小室 明子君
調整担当部長	雲田 孝司君	施設整備担当部長	小野寺弘樹君
総合調整部長	加藤 典英君	選手村担当部長	安部 文洋君
準備会議担当部長	矢部 信栄君	スポーツ推進部長	早崎 道晴君
自治体調整担当部長	井上 卓君	国際大会準備担当部長	土屋 太郎君
計画調整担当部長	鈴木 一幸君	スポーツ施設担当部長	田中 慎一君
大会準備部長	延與 桂君		

### 本日の会議に付した事件

二〇二〇年に開催される第三十二回オリンピック競技大会及び第十六回パラリンピック競技大会の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行う。

- ・新国立競技場の整備計画見直しについて(その二)(説明)
- ・新国立競技場の整備計画見直しについて(質疑)
- ・東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会会場計画の再検討の状況について(質疑)
- ・東京二〇二〇パラリンピック競技大会について(質疑)
- ・東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会エンブレムについて(質疑)

### 石川委員

オリンピック・パラリンピック大会は、激戦の中、二〇二〇年東京開催を勝ち取ったものであり、同時に、各方面に多くの期待と夢をもたらすことができた貴重な大会であります。

既に指摘をしましたように、オリンピック・パラリンピックを契機に社会がよくなることへの国民の期待は高く、スポーツ、英会話、ボランティアなど具体的な意識や行動の変化も見られつつあります。

政府も、二〇二〇年、さらにはその先を見据えた政策立案に動き始めており、民間企業も、数年前まではリーマンショックや東日本大震災対応に見えぬ姿勢が強かったわけでありまして、二〇一三年に入りまして、攻めの展開が随所に見えつつあります。

国民が一つの目標に向かって力を出し合い、協力することができる大事業なわけでありまして、しかし、ここに来て、新国立競技場の建設費やその内容をめぐって、国民のオリンピック・パラリンピックへの意欲をそぐような事態となっております。さらに重ねて、決定された公式エンブレムの盗用を疑わせるような事例が報道されております。

そこで、このエンブレムをめぐると問題について伺いたいします。

まず、既に、オリンピック・パラリンピック招致のために、バッジやポスター、のぼり旗など多数つくられ、私どもも積極的に配布してきましたわけでございますけれども、旧エンブレムにどのぐらいの費用がかけられたのか、伺いたいします。

**矢部オリンピック・パラリンピック準備局準備会議担当部長** 招致エンブレムを使用したピンバッジやポスターなどは、平成二十三年度から平成二十六年度までの四年間で、合計で約一億三千六百万円支出してございます。

### 石川委員

一億三千六百万円、四年間ということでございますけれども、大変な大きな金額が投入されたわけでありまして。

七月二十四日に公式エンブレムが公表されたわけでございますけれども、今までの桜のリースエンブレムが使用できなくなったわけでありまして。

旧のグッズは無償で配られたということもありまして、バッジ、ポスター、のぼり等、多くの皆さんの努力で普及をしたわけでございますが、一億三千六百万円かけたということでございますけれども、今までのグッズを何らかの方法で生かす道はなかったのか、伺いたいします。

**矢部オリンピック・パラリンピック準備局準備会議担当部長** オリンピック憲章等、IOCの規定により、組織委員会が、招致エンブレムにかえて大会固有の新たなエンブレムを作成することとされてございます。このため、招致エンブレムを継続して使用することはできません。

したがって、関連グッズも使用することは基本的にはできません。

### 石川委員

まだまだ招致エンブレムを使っていたいただいている方もたくさんおいでになるわけでありまして。頭が下がる思いがいたすわけでございます。

エンブレムを使用していただいた皆様に対する感謝の意と、答弁にあったような理由で使用できなかった旨をPRする必要があるんじゃないかなというふうに思いますけれども、都の対応について伺いたいします。

**矢部オリンピック・パラリンピック準備局準備会議担当部長** 七月二十四日、大会エンブレム発表式典の際、知事より、招致活動以来さまざまな場面で使用し、スポーツを通じてこの国に勇気と活気を取り戻したいという強い願いを込めた桜のリースのエンブレムは見事にその役割を果たし、新しいエンブレムに交代する、名残惜しい思いもあるが、新しいエンブレムがオールジャパンを牽引するシンボルとなると挨拶しております。

区市町村へは、大会エンブレムの公表をもって、暫定エンブレムの使用を中止するよう通知及び説明会を実施してございます。

今後は、新しい大会エンブレムをさまざまな形で活用することにより、都民の間で親しまれ、定着するように取り組んでまいります。

### 石川委員

手続的にはそれなりのことが行われてきたわけでございますけれども、今までバッジ等をつけていただいたという縁を何らかの形で今後生かせればなと思っております。

正式エンブレムのコンテストの賞金は百万円ということで、決して高い金額という印象ではありませんけれども、エンブレムについてはさまざまな議論が巻き起こっております。

作者である佐野氏本人は、ベルギーのリエージュ劇場のロゴの盗用疑惑に対して、事実無根と全面否定をしております。

政府は、組織委員会から、発表前に国内外の商標調査をしていると、問題ないとの見解を示しております。

しかし、佐野氏のオリンピックエンブレム以外の作品で盗用を疑わせる事実が明らかにされていることから、法的には問題なくても、他国の模倣に厳しい目を向ける日本が、世界から多くを迎え入れる祭典の顔にするのはいかがなものかという法律家の意見もあります。

また、盗用疑惑の拡大に五輪関係者は模様眺めを決め込んでおり、首相の二度目の白紙撤回の決断を待ち望む声さえ出ているという報道もございまして。

また、五輪エンブレムを選出する審査委員の代表を務めました永井一正氏から、現在公表されているものは公募案の一部修正したものであり、当初案はベルギーのロゴとは似ていなかったというような報道もございまして。

そこで、エンブレム問題について知事が口にして、正確な情報が必要とのことについて全く同感であります。

都として、エンブレム決定までの過程について、しっかりと情報公開をすることを求めるべきと考えますが、都の見解を伺います。

**矢部オリンピック・パラリンピック準備局準備会議担当部長** 大会エンブレムは、IOC及び組織委員会が管理し、問題ないとしていただいております。

適正なプロセスを経て選定されたものと聞いており、特段、情報公開を求めることはいたしません。

### 石川委員

知事は、さまざまな問題に対して発言を求められる立場であります。エンブレムの決定は組織委員会の問題であることは理解するわけでありまして、このエンブレムの問題について、都はしっかりと情報を把握する必要があると思えます。

新エンブレムは、二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の象徴となる大切なものであります。都民、国民のオリンピックへの期待と夢をしばませるようなことのないような対応を望むものであります。

いずれにしても、都民、国民の気持ちがあればならないよう最大限の努力をしなければならぬところと思っております。

場合によっては、エンブレムについては、活用までの作業を一時中断して、東京都も推移を見守ることも選択肢の中に入れておくべきであるというふうに考えております。

次に、国立競技場の整備計画の見直しについて伺います。

五月二十七日に開催された本オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会において、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックの開会式、閉会式を初めメインの会場となる新国立競技場の開閉式の屋根が、下村文科大臣と舛添知事との会談の中で二〇二〇年の大会に間に合わなくなったことについて、国民も都民も、予想外のこと大きなショックを受けたと指摘してきたところでございます。また、総工費も一千六百二十五億円がさらに膨らむこと、工期がどのように変更になるのか等、わからないことが噴出している状況でありました。

また、下村文科科学大臣の口から、都に五百億円の負担を求める話が飛び出したわけでありまして、知事も私どもも、納税者である都民にしっかりと説明できるものでない限り負担できないし、負担すべきでない、この間、主張してきたところでございます。

その後、六月二十九日にオリンピック・パラリンピック調整会議において、下村大臣から、新国立競技場の整備計画案を、二〇一九年五月末完成で、開閉式の屋根はオリンピック後に先送りをし、一万五千席を電動から簡易着脱式にするにもかかわらず、五月時点から九百億円も上乗せをされた二千五百二十億円の建設費が示されたわけでございます。そして、七月七日、国立競技場将来構想有識者会議において、この案は了承されたわけでありまして。

ところが、七月十七日、安倍内閣総理大臣が、新国立競技場の整備計画の見直し、白紙撤回を表明いたしました。

都議会維新の党は、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックのためのスタジアム建設については、五輪開催のレガシーとして推進をする立場をとってまいりました。しかし、建設費の膨張、完成時期の不明確さ、また、建設コンセプトの混乱については、それを看過することができないという立場であり、総理の白紙撤回を支持するものでありますが、遅きに失したという面もあり、今後、しっかりとした計画として立て直さなければならぬと思っております。

そのような観点から、安倍内閣総理大臣の新国立競技場の白紙撤回の内容について、どのように把握をしているのか、伺いたいします。

**雲田オリンピック・パラリンピック準備局調整担当部長** 七月十七日に安倍内閣総理大臣は、新国立競技場の整備計画見直しにつきまして、オリンピック・パラリンピックは国民皆さんの祭典であり、主役である一人一人の国民やアスリートに祝福される大会でなければならないとした上で、新国立競技場の現在の整備計画を白紙に戻し、ゼロベースで見直すことを決断した、できる限りコストを抑制し、現実にベストな計画をつくっていくなど述べられたところでございます。

### 石川委員

安倍内閣総理大臣は、七月十七日の白紙撤回の表明と同時に、オリンピックまでに完成できるとの確信は得られていると発言をいたしました。舛添知事は二〇二〇年一月の完成を求めています、当然のことかと思えます。コーツIOC副会長は、二〇二〇年一月までに完成させる要請があったところでございます。

オリンピックは、本番だけでなく、テストイベントの開催が必要となります。テストイベントは、大会の前年を中心にして、実際の大会で使用予定の会場を使い、可能な限り本番に近い状態で実施することとなっております。そして、テストイベントで得られた結果を運営の改善につなげ、本番では最高のものとするために実施をするわけでありまして。

テストイベントは、大会開催に向けてハーパーの意味合いも持ち、大会主催者にとっては大変重要なものであるとともに、選手にとっても、本番に備えたイメージトレーニングともなるわけですし、世界選手権や国内選手権の位置づけをする競技もあり、一つの大きな大会なわけでありまして。

本番の前年を中心に開催ということで、大いにスポーツ振興、国際交流にもつながり、また、ボランティアや観客にとっても重要な意味を持つわけでありまして。

新国立競技場では陸上競技及びサッカーが行われることとなりますが、過去の大会のテストイベントは、それぞれいつごろ行われたのか、伺いをいたします。

**雲田オリンピック・パラリンピック準備局調整担当部長** ロンドン大会以前の過去三大会におきましては、陸上競技のテストイベントにつきまして、大会の年の五月から六月に実施されております。

サッカーにつきましては、大会の年の四月に実施されておりますが、いずれの大会も予選会場のみで実施しております。

二〇二〇年東京大会のテストイベントの時期につきましては、新国立競技場の整備スケジュールなどに合わせて、今後、組織委員会を中心に調整することとなります。

### 石川委員

立候補ファイルでは、陸上競技は大会開催年の二月から四月、サッカーは前年の十一月から十二月にテストイベントを予定しております。少しでも早く完成させることが望ましいと考えております。

都は、国に対して、テストイベント等の実施もしっかり視野に入れながら、大会に対する影響が生じないよう働きかけていくべきと考えております。

新国立競技場問題は、工事費の問題も重要であり、また、工期もオリンピック・パラリンピックに間に合わせなければならず、これも当然重要であります。

しかし、それだけではなく、新国立は東京にあり続けるわけでありまして。東京都としては、オリンピック終了後のレガシーとすべく、維持管理の問題や、周辺の神宮球場や秩父宮ラグビー場等との土地利用の中に新国立競技場を位置づけていく長期的な視点も求められます。

新国立競技場建設をめぐっては、都も受け身の立場ではなく、積極的に関与し、真に二〇二〇年オリンピック・パラリンピックのレガシーとするための知恵を出していく必要があると考えますが、都の基本的な考え方と、既に打ち出しているものがあるようでしたら、伺いをいたします。

**雲田オリンピック・パラリンピック準備局調整担当部長** 新国立競技場は、二〇二〇年大会におきまして、開会式、閉会式、サッカー、陸上競技が行われるメインスタジアムとなる極めて重要な施設でございます。

都といたしましては、新国立競技場が、アスリートファーストの視点から大会の準備や開催に支障なく整備され、神宮外苑地区に所在する施設として、周辺環境との調和を図りながらレガシーとなることが重要であると考えております。

今後とも、都は、大会開催都市として新国立競技場の整備に協力してまいります。

ここに来て、新国立の建設費が、二〇一三年には三千四百六十二億円と、建設にかかわる共同企業体、JVがJSCに報告をしていたとのこと、文部科学省の第三者委員会に報告されました。建設費高騰問題も早い時期から把握をされていたことが明らかになってきたわけでありまして。これらの情報を活用できなかったガバナンスの問題ともいえるわけでありまして。

新国立競技場建設をめぐるとデザイン、建設費、建設コンセプト、完成時期のダッチロール状況を取りあえずとめたのは安倍内閣総理大臣だったわけでありまして。

総理自身は国会で、この問題の最終責任は自分にあるとの答弁をいたしました。確かに形式論としてはそのとおりでありますけれども、組織は何のためにあるのかということでありまして。全ての問題に、一タツツである総理大臣が責任をとりながら仕事を進めるわけにはいかないわけでありまして。

そういう意味では、舛添知事の責任者は誰なのかという発言は当然のことであり、まず、その責任が問われるべきだと思います。改めて、この間のていたらくに対して、組織のけじめをつけ、また健全化を図らなければならぬという意味でも、責任者の処分を求めることを表明するものであります。

また、今後、東京都に対して、国が新国立競技場をめぐって何らかの説明を求めてくるものと思えます。都民の負担を求めると、しっかりと都民が納得できるものでなければならぬということを変更して表明いたしまして、質問を終わります。